

# 酒都大学広島構想

広島大学 交通工学研究室 浜口 真央、高本 圭吾、植木 隆行、西尾 慎也、大後戸 勝、東 香織、Tran Ngoc Linh、李 綱

## 東広島市とは...

東広島市は1974(昭和49)年4月20日に誕生し、「人間と自然の調和のとれた学園都市」を目指して社会基盤や産業基盤の整備が進む都市である。南部と東部には学術研究施設が点在し、中心部は作り酒屋が軒を連ね、瀬(兵庫県)、伏見(京都府)に並ぶ**三大銘醸地**「酒都」として栄えた時代の面影を残している。2005(平成17)年2月7日の市町村合併により、人口約178,000人、面積は約635km<sup>2</sup>と広島県の約7.5%を占める広島県中央地域の中核都市となり、今後の発展が期待される。その一方で、大学移転に伴って交通事故の増加や学生用アパートの空き部屋の増加、さらに観光産業の伸び悩みなど課題も抱える。

これらの問題に対処し、「人間と自然の調和のとれた学園都市」を形成すべく我々は酒都大学広島構想を考え提案する。

## 酒都大学広島構想

酒都西条に足をおろす広島大学において地域の文化に根ざしたカリキュラムやシステムを形成し、地域に根ざした高等教育施設となることで東広島市の目標である「人間と自然の調和のとれた学園都市」の達成に寄与する。

酒都大学広島構想に向けて「知」、「動」、「楽」の3つのプランを提案する。

「知」:酒教育と酒研究の推進

「動」:行動パターンの類似性を利用した学生主導のTMAの設立

「楽」:空きアパートを活用した滞在型「学生気分」観光システムの構築

## 「知」:酒教育と酒研究の推進

「酒は百薬の長」と呼ばれ、多くの効能が知られている。また人的コミュニケーションを円滑にするツールとしても重要な役割を果たす酒は日本文化にとっても不可欠な要素である。

しかし近年、飲酒運転による交通事故や急性アルコール中毒など、酒を取り巻く環境における様々な問題が指摘され、それらの解決にむけて積極的に取り組む必要性が高まる。

酒都大学広島では、酒に関する先進的な教育や研究を通して酒文化を継承する学生の育成や、学術的研究の推進を行う。

### 酒教育

酒都大学広島は、酒との上手な付き合い方を習得し、またいつどんなときも日本酒の蘊蓄を披露することができる学生を育てる。

酒造関係者や一般市民を講師に招き、「伝統的造り伝承講座」や「お酒との上手な付き合い方講座」、さらに「日本酒ソムリエ育成講座」等の開催および一般教養科目化する。これによって学生は酒への知識を深めると同時に地域への愛着を高めることができる。

### 酒研究

酒の効能や成分、効果的な販売方法を学際的に推進し、酒都大学広島を酒に関する先進的研究機関とする。

酒の香りや味、色などの分析を行う化学班や、酒の市場動向や販売戦略等の研究を行う社会班、さらに居酒屋での人間の飲酒行動に焦点を当てた行動科学班などに分かれ、酒や酒を取り巻く環境についての研究を総合的に行うことができる研究機関を形成する。

産学連携での教育・研究により、学園都市としての魅力を高める。



## 「動」:行動パターンの類似性を利用した学生主導のTMAの設立

酒都大学広島に在籍する学生は約15000人である。大学生は朝から夕方まで大学に通い、大学での講義やアルバイト、飲み会、クラブ活動への参加など、行動パターンが類似する集団が存在することが伺える。この**学生の行動パターンの類似性を利用し、TMA(Transport Management Association)**を確立する。具体的には以下に示す3つのサービスを提供する。

a) 放置自転車を利用した学内レンタサイクル

広島大学では以前から放置自転車の増加が問題になっている。本年3月に実施した放置自転車調査によると、学内の放置自転車数は1039台となった。学校側はこの放置自転車の処分を業者に委託している。このような**放置自転車を有効に活用し**、また今後放置自転車台数を増加させないための対策として、**放置自転車を有効利用したマルチポートレンタサイクルシステム**を提案する。各駐輪場・駐車場にサイクルポートを作り、どのサイクルポートで自転車をレンタル&返却することも可能といったフレキシブルシステムを構築し、放置自転車撤去費用の削減、大学構内の移動、大学周辺の移動が確保される。日本一の敷地面積を持つ酒都大学広島において、来年度から実施される休憩時間の短縮という状況下においても休憩時間を有効に活用するためのツールとなりうる。

b) 通学相乗りシステム

東広島市の公共交通ネットワークの整備が十分でないことを理由に、学生の自動車保有率は非常に高い。そのため、自動車保有率の高い学部付近の駐車場不足や駐車場探しのためのうろつき交通が頻発している。その改善策として**学生相乗りシステム**を提案し、2人以上乗っている自動車に対しては建物に近い駐車場を提供する**HOV駐車場**を設定する。また講義棟から離れた駐車場を利用する場合等a)で提案した**マルチポートレンタサイクルシステム**との協働によって学内の円滑な移動をサポートする。通学相乗りシステムによって学内駐車場問題の解消やレンタサイクルシステムの利用促進に寄与する。

c) 飲み会相乗りシステム

酒都大学広島の学生が楽しくそして安心して飲み会に参加できるようサポートする飲み会相乗りシステムを提案する。東広島市では学生の居住地域集積地区と居酒屋集積地域が点在しており(図2)、飲み会後に居酒屋からアパートへの移動が必要になるケースが多い。そのため酒都大学広島の学生が飲酒運転をすることがないような移動手段の確保が必要であり、それを「飲み会相乗りシステム」を通して可能にする。これは**学生が多く居住する地域と居酒屋の場所を結び送迎バスシステム**で、学生が事前にインターネットの学内情報掲示板上で送迎バスを予約すると、同時期に同地区でその飲み会を行っているグループとスケジュールマッチングを行い、集団での送迎を可能にする。こりにより飲み会時の安価な移動を提供し、さらに飲酒運転撲滅に寄与する。

## 「楽」:空きアパートを活用した滞在型「学生気分」観光システムの構築

学園都市としての強みと酒都としての強みを活かし、酒都大学広島の学園都市としての観光産業を活性化させる観光システムを構築する。

毎年約200部屋出る**学生用アパートの空室を利用**し滞在型観光を促進するための宿泊施設の提供を行う。特に毎年4500人輩出される卒業生やその家族をターゲットとした、青春時代を思い起こさせる**「学生気分滞在型観光」**を促進するためのシステム作りを行う。卒業生やその家族、また大学にゆかりのある観光客に対し、大学で酒に関する教育の機会を提供し、また酒蔵通りの酒蔵体験や学生時代の立ち寄りスポットを周遊することで魅力的な観光地を形成し、観光需要を増加させる。

「動」のTMAの確立によって滞在者に対する移動手段の確保も可能になる。

